

静しずのムクノキ

「大きな木だね。」

「ずっとここに立ってるの？」

その男の子は、お父さんにたずねました。すると、お父さんは、

「そうだよ。お父さんが生まれる前から、そして、おじいちゃんの生まれる前から、そのまたおじいちゃんの生まれるもっと前から、ずっとね。」

その木とは、那珂市瓜連かつらぎの桂木稲荷神社境内けいだいに生育する、通しよう「静のムクノキ」です。

この木には、こんなお話があるのです。

応徳おうとく三年、今から九百年以上も前のことです。

前九年の役

(一〇五一年)

東北地方の豪族と朝廷側武将对立した戦乱。

出羽

東北地方の旧国名の一つ。山形・秋田両県にまたがる地域。

陸奥

東北地方の古い呼び方の一つ。福島・宮城・岩手・青森の四県に相当する地域。

後三年の役

平安時代後期、東北地方を舞台とした戦い。前九年の役の後、藤原氏が登場するきっかけとなった戦い。

平安の時代、出羽の清原氏、陸奥の安倍氏という東北地方を支配していたごう族がいました。ところが、この二人のごう族が対立し「前九年の役」「後三年の役」という奥羽をぶたいとする、歴史に残る大きな合戦があいついで起こります。

「前九年の役」は、多賀国府にいた將軍源頼義、義家親子が出羽の豪族清原氏の助けを借りて、陸奥の豪族安倍氏をめつぼうに追いかんだ「北方の王者」の交代劇ともいえる戦いでした。その後、清原一族の間に内ふんが生じ、「後三年の役」が起こります。この内ふんにうまくかい入ったのが源義家でした。

東征してきた源義家が戦勝を



東征^{とうせい}

軍隊などが東方に行くこと。日本では関東や東北地方に軍を進めるときに使われた表現。

き願したと伝えられているのがこの神社です。

その時、義家は、何としてもこの戦^{いくさ}に勝利し、陸奥の混乱を収めようと言う強い思いを胸に、持っていたムチを神社のかたわらにさしました。そのムチが根付いたのがこのムクノキといわれています。

このムクノキは、ムクノキとして生育できる北限^{ほくげん}のきよ木としてめずらしい木とも言われています。

九百年以上も前から、ずっとここに立ち、雨の日も風の日



も、人々の歴史を見守ってきました。境内で遊ぶ子どもたちをいつの時
代も見つめてきました。ずっとずっと昔から今まで、親から子へ時代が
流れていく様をじっとここで見てきたのです。

ほら、さわってみて…

ムクノキを

聞こえる

感じる

長い歴史の足あとを

時代の

いぶきを

